

# 2024年第35回PIANC AGA/コングレスの概要

## ○AGA

### 1) 第90回カウンシル及び事務局会議 (26日開催)

AGAの前日に開催され、AGAにおける議決事項を討議しました。

事務局会議では、各国部会の活動状況が報告され、日本から鈴木事務局長が活動の現状と2024年の行動計画等について報告を行いました。



### 2) AGAでの主要事項

#### 1) 本部活動報告

エステバン会長から、過去1年間の活動状況が報告され、その中で、昨年日本訪問についての報告と謝辞が述べられました。また、カッペレン事務局長からも同様に活動報告が行われました。

#### 2) デパペ賞

審査委員長の岡田副会長より、審査報告があり、17編の中より、一位となったオランダのEmma Berendsen氏より論文内容の発表がありました。2位には五洋建設の馬場氏が入賞しました。

#### 3) 今後のイベント予定

- ・ AGA 韓国 2025年5月13-16日 釜山開催
- ・ AGA 英国 2026年 HULLにて開催
- ・ コングレス 2028 アントワープで開催
- ・ Smart River 2025年9月8-12日 メンフィス

#### 4) 能登地震報告

西村港湾局技術参事官より、1月に発生した能登地震の復旧と対応について、報告があり、この体験と教訓をPIANCの場において共有していくことが、報告されました。

#### 5) 実行委員会からの報告

南アフリカの報告の中で、コングレスについての報告があり、参加数で日本は3位との報告がありました。



## 6) 人事

日本部会の岡田会長が任期を迎え、その後任として栗山善昭氏が副会長として選出されました。また岡田会長は今後、名誉副会長として、今後の PIANC 活動を支援していくことになりました。

## 7) 各種委員会

25 日の ExCom に岡田副会長、28 日の MarCom に樋口委員、InCom に角野委員、30 日の ProCom に林田委員が出席しました。

また、他の委員会にも日本から各委員がオンラインで参加しました。



## ○コンGRESS

PIANC の第 35 回のコンGRESS は、コロナ禍において 2 年延期され、6 年ぶりの開催となりました。なお、アフリカ大陸では、1926 年のカイロ以来の開催となります。

論文発表は 6 会場に分かれて行われ、発表数は約 180 でした。日本からは 16 編の発表が

あり（ほかにポスターセッション 1 編）。過去のコンGRESS と比べ最多であり、わが国の海外進出の積極性がうかがえます。日本からの発表に関しては、いずれも活発な質疑応答が行われ各所で活発な技術交流が行われると共に、MarCom 樋口委員、InCom 角野委員が、セッションチエアーを務めました。同時に各協賛企業によりブース展示が行



われ、Shibata Fender Team がブース展示を行い、多くの訪問客が訪れていました。

- ・コンGRESS参加者 国土交通省 西村参事官、大竹補佐、富田主査、水産庁 安田補佐、白谷補佐、日本部会 須野原元副会長、林田元副会長、岡田会長、鈴木事務局長、栗山本部副会長および同伴者

2024年PIANC南アフリカコンgres投稿論文一覧（下線は発表者、所属は応募時のもの）

	発表者	所属	タイトル
1	<u>Dr.Le Phuong Dong</u> , Mr Hiromi Namiki, Mr Kenichi Iwama, Karya Aditya, Mr Putra AsmarAndilas	Oriental Consultants Global Indonesia	Resilient Port of Future: Case study on the sustainable construction of the Patimban Port Development Project
2	<u>宇野 州彦</u>	五洋建設	Residual Structural Performance Evaluation for Piers Using Artificial Intelligence
3	<u>Dr Hitoshi Akiyama</u> Mr Harvinder Singh, Mr Mishra Kumar, Mr Dominique Polte, Mr Vitomir Mihajlovic,	沿岸技術研究センター Jacobs, Australia Trellegorg Shibata Fender Team, Prosertek, Spain	Recommendations for fender testing in PIANC WG 211
4	<u>栗原 直範</u>	ニュージェック	Fundamental Study on Understanding the Behavior Characteristics of Breakwaters during Tsunami Events
5	<u>斎藤 正文</u>	オリエンタルコンサルタンツ	Storm surge and tsunami risk assessment in Ise Bay under future climate conditions
6	<u>富田 瑠夏</u>	国土交通省 港湾局 産業港湾課	Development of “CNP Certification (Container Terminal)” for objectively evaluating efforts to decarbonize ports
7	<u>松本大輝</u> <u>井上徹教</u> YM Oh CS Peng	港湾空港技術研究所 同 KIOST、Korea C WTRI、China,	Proposal of the environmental quality index in Northeast Asia ports
8	<u>三井 順</u> 久保田 真一 橋田 雅也 昇 悟志	不動テトラ 同 漁港漁場漁村総合研究所 不動テトラ	Development of 3D digital modeling method for wave-dissipating works
9	<u>米山治男</u> 加島寛章	港湾空港技術研究所 同	APPLICABILITY OF A SIMPLIFIED CALCULATION METHOD FOR ESTIMATING SHIP TRACTIVE FORCE DUE TO WIND LOAD
10	<u>小柳 桂泉</u> 宮田 正史 中村 充裕 町田 敬二	国際協力機構 国土交通省 三井共同建設コンサルタント, 東亜建設工業	Adoption of Steel pipe sheet pile quay wall with press-in method on rocky ground in Dakar Port
11	<u>植田裕也</u> 馬庭泰介 内田歩	国際協力機構 同 同	IMPROVING THE FUNCTION OF MOMBASA PORT AS A LOGISTICS HUB IN THE NORTHERN CORRIDOR
12	<u>栗山善昭</u> 津田宗男 岡崎 裕) 小銭貴一郎 谷定大輔 高山知司 海田翔平 荒木元輝	沿岸技術研究センター 同 四国地方整備局 同 同 京都大学 五洋建設 海上技術研究所	NEW MOORING SYSTEM FOR GPS WAVE OBSERVATION BUOYS
13	<u>中西 雅時</u> Dr. Pamuk Aykut 岡田 友萌菜 Damian ROMANIAK	オリエンタルコンサルタンツグ ローバル 同 ILF Consulting Engineers Polska	Various Problems on Executing Port Building Projects in Africa
14	<u>碓塚 史明</u> 木村 雄一郎 水谷 征治 山下 徹 佐々木 雅章 不動 雅之 下迫 健一郎 長野 章 清宮 理	日立造船 同 東洋建設 五洋建設 岩手県 水産庁 沿岸センター はこだて未来大学 早稲田大学	INSTALLATION AND EFFECTS OF FLAP GATE-TYPE BREAKWATER AGAINST TSUNAMI AND STOME SURGE
15	<u>安田 大樹</u> 旭 隆	水産庁 整備課 神奈川県 農水産部 水産課	APPROACHES FOR CONSERVATION AND RESTORATION OF COASTAL SEAWEED BEDS THAT CONTRIBUTE TO CO2 SEQUESTRATION
16	<u>山瀬 晴義</u> 吉永 宙司 白石 悟 米山 治夫	港湾空港総合技術センター 同 北海道科学大学 港湾空港技術研究所	Establishment of rubber fender test environment investigation and certification program
	<u>松本 弘</u>	水産庁 防災漁村課	Evacuation of fishing vessels in Tsunami Events (ポスターセッション)